

2025

7

ナイル

現代短歌ナイル

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

芙貴子ワールド／松本芙貴子
偶然の糸を遊ぶ【13】

滋子の部屋／須藤滋子

涼さんのにぎわいホビ～／橋本涼

大会詠草

5月号作品批評／宮本史一（心の花）



NILE CAMPUS

313

伯梅閑話 — 進水式 —

小村井敏子 (五代目神田伯梅)

自分で求めたわけでもないのに、珍しい経験することが多かったと振り返る。その最初が進水式だ。私は大学生だった。父が現在のNTT、当時の日本電電公社の海底線事務所の所長だったので、進水式のとき、船をつなぎとめている紅白のひもを切るのは女性がいいからと駆り出され、両親と私が下関まで行くことになった。オリンピックのため、道路が拡張されて、それまで道の向こう側だった伯父の金物屋が、同じ敷地に移転してきた頃だ。日本橋の三越で、中振袖をあつらえた。まだ、今のような大振袖はなかったのだ。買い物上手の買い物好き、三越は安くていいものがあると言っていた母だ。大張り切りであったと思う。山陽新幹線はなく、東海道新幹線から、在来線に乗り換えて行くので、往復に時間がかかる。下関一番の宿というところに泊まって観光もさせていただいたから、二泊はしたのではないかと思うが覚えていない。秋芳洞と赤間神社に案内していただいたと記憶する。

昭和四十四年七月十二日の午前十一時に引き渡したという、三菱重工業、下関造船所所長からの手紙が残っている。下船2450号の「津軽丸」だ。このあと、日本電電公社側が三菱重工業側を招いての宴へのお礼が書かれている。進水式は、事前に練習をした。小さい斧で切るのだ。練習では、一度で切れたが、本番は一度で切れず、二度振り下ろした。力が入ってしまったのだろう。この時、映像を撮ったが、今のようなデジタル時代ではないから、簡単にコピーをとはいかないので、私は見ていない。記録映像では、一度目に振り下ろしたところまでが映っていたという。帰りの在来線で、映像を撮った監督と座席が一緒だった。私は一言もしやべらずにいたことを覚えている。監督も気づまりだったろうと思う。一仕事終えてほっとしたいときに、所長一家と同じボックスとは。